

豊かさとは

【実践者】

氏名	江本 真理子	学校名	宮城県柴田高等学校
担当教科等	英語	対象学年（人数）	3年 1組（25名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2023年9月 ～ 12月（13時間）		

コミュニケーション英語Ⅲの授業実践後、特別活動（ロングホームルーム）（本時）での実践を行った。

【コミュニケーション英語Ⅲでの実践概要】

1. 単元（活動）名：			
Lesson17 The Shoe That Grows”（数研出版 Revised BIG DIPPER English CommunicationⅢ）			
2. 単元目標			
コミュニケーション英語Ⅲにおいて、9月～10月に Lesson17 The Shoe That Grows”（数研出版 Revised BIG DIPPER English CommunicationⅢ）の授業を行った。			
本単元は、アフリカの教育問題をテーマとし、就学率の低さが貧困から抜け出せない要因となっている現状を伝えている。学校に行けない原因を探り、米国牧師ケントン・リーが学校に通うための子どもたちの靴を工夫して改良したことにより、貧困から抜け出す一助とできたという一例を紹介している。この読解を通じて、アフリカにおける貧困問題について理解するとともに、日本に住む自分自身の生活にも目を向けさせ、人生の豊かさとは何かを思考させ、英語で意見交換をさせたい。また、論理的に文章を捉えて整理して伝える力や文章を要約する力を養う。			
関連する学習指導要領上の目標：			
社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを自分自身の立場を明らかにしながら、明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする。			
3. 単元の評価規準	①知識及び技能	聞いたり読んだりした内容を正しく理解し、本文に関する質問に英語で答えることができる。	
	②思考力、判断力、表現力等	題材に対する自分の考えを根拠を示しながら自分の言葉で表現することができる。	
	③主体的に学習に取り組む態度	題材に対する自分の考えを根拠を示しながら自分の言葉で表現することができる。	
4. 単元設定の理由・単元の意義	1年次より授業や朝のSHR、LHR、講演会などを活用してグローバル 이슈に目を向けさせるよう促してきた。また、今回のJICA教師海外研修で得た資料を用いてLHRを実施し、生徒は積極的に思考を深めてきたので、発問に対して自分の考えをもつことはできると予想される。それを英語で自ら表現したいと思わせる授業を展開したい。		
5. 単元計画（全9時間）			
時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
1	導入、Part1	・読後にアフリカへの理解が深まったことを確認するため、本文読解前にアフリカの学校に対するイメージをブレインストーミングさせ、小さい紙に英語で書かせる。 ・グループでまとめて発表する。 ・新出語句の確認、英語で説明された英単語を考える	
2～8	Part1, 2		

		・オーラルリーディング ・Q&Aにより内容理解 ・TF 問題 ・ペアリーディング ・本文要約	
9	パフォーマンステスト ・着目すべき点を伝え、違いや課題に気づけるようにする ・読後に知識を得て読前とイメージが変わっているか ・異文化間の多くの違いに気づけているか ・国の課題を見いだしているか。 ・グローバルな視点で自分の行動について思考が深められているか	・読後のアフリカに対するイメージを思いつくだけ記入する。 ・モザンビークのマクルンガ初等教育学校の様子を動画で視聴する。日本と似ている点、日本と異なる点は何かを挙げ、できるだけ多く書かせる。 ・モザンビークの学校についての問題点、課題は何かを考えて記入する。 ・今後、高校を卒業し「〇〇のために〇〇をしたい!」という形で決意表明を記入する。	

【特別活動（ロングホームルーム）での実践概要】

1. 単元(活動)名： (2) 「豊かさとは」 (「日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」より国際理解と国際交流の推進)		
2. 単元目標 「コミュニケーション英語Ⅲ」の授業で学習したアフリカ・ケニアの題材から得た、教育の普及や国際協力の意義というテーマに関連させ、アフリカ・モザンビークという国の現状を知らせ、国による違いや日本とのつながりについて考えさせる。他国の文化や生活習慣を理解し、共に尊重し合い、主体的に国際社会に生きる日本人としての在り方、生き方を探求しようとする。 関連する学習指導要領上の目標： 自主的、実践的な集団活動を通して身につけたことを生かして主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。		
3. 単元の評価規準	①知識及び技能	他教科などで得た知識を活用しながら他国の現状について理解しているか。
	②思考力、判断力、表現力等	様々な視点から物事を捉えて考え、相手に表現し、さらに思考を深めることができるか。
	③主体的に学習に取り組む態度	積極的に他と協力して様々な意見を出しまとめようとしているか。

4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 他国の現状について深く考え、身近な学校生活と比較して考えることで、クラスメイトと互いに支え合い、高め合う関係を構築し、学びに向かう主体的で協働的な集団づくりを目指す。間違いを恐れず主体的・対話的にグループで意見を交換し、協力して合意形成をしたり、発表をしたりすることにより、言語力を育成し、ホームルーム運営を充実させる。 【単元の意義】 国際社会に関する認識を深め、国際協調と国際貢献の在り方を考える。 【児童／生徒観】 本クラス生徒は学習全般に意欲的であり、LHRでの国際理解やコミュニケーション英語Ⅲにおけるグローバル・イシューについても主体的に意見を述べ取り組んできた。ホームルーム運営としては、生徒は進路実現が目標の中心となって、互いの尊重が疎かになる時期であるため、世界の問題に目を向けさせ、身近なクラスメイトを支え合い協働して目標を達成していく集団づくりをしたい。 【教材観】 7月のLHRの時間に生徒はモザンビークの生徒に向けて、「日本の紹介」と「質問したいこと」を画用紙にまとめ、折り紙を貼って準備しており、現地の生徒に渡して質問への回答を得ている。コミュニケーション英語Ⅲにおいて関心が高まっており、深い理解につなげられるものと思われる。 【指導観】 本クラスには中国にルーツのある生徒がいるため配慮する。
---	---

5. 単元計画（全3時間）

時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
1	・モザンビーク国内における格差、日本との関わりについて気づいているか。	・モザンビークの人々の生活の様子、路上で店を構える若者や子どもなど街の様子などの写真や動画を見て、日本との違いや日本とのつながりについて気づき、異文化理解を深める。	
2 本時	日本の高校生である自分たちの生活と世界の人々の生活の違いに気づき、自らの学校生活を見直すことができるか。	ウェビングマップを作成し、日本の高校生の立場と、世界の人々の両方の視点から「豊かさ」とは何かについて考える。	
3	日本や世界の現状や地球市としての行動について思考を深める。	・「世界の人々にとっての豊かさ」を振り返る。モザンビークの大学生専門学校の先生が考えたダイヤモンドランキングによる国にとっての優先事項を視聴する。	

6. 本時の展開（2時間目）

本時のねらい：モザンビークという国の文化や生活、日本との関わりについて理解し、国際社会に生きる日本人としての在り方を主体的に探究しようとする。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態 ○主な発問（T=Task, Q=Question） ▲予想される生徒の反応	指導上の留意点 （支援）	資料（教材）
-------	--	-----------------	--------

導入 (5分)	T1 ウェビングマップを作成する。日本に住む高校生の私たちにとっての豊かさとは何か。 (5分) 小さな紙に書いておきグループ分けをして共有する。教師が写真に撮って記録し、全体で共有。	積極的に意見交換をする雰囲気作りをする。間違いということはないので発言を大事にファシリテーションをする。	生徒の回答 : Money/Food/Water/ 等
展開 (25分)	Q1 モザンビークの写真を見せる。(5分) ・物売りが近づいてきて必死に商品を売ろうとする写真。 ・マプト魚市場で物乞いの子どもが近づいてきた写真。 ・大人がごみを漁っている写真。 ○「資料②について、自分だったらこの場面はどう発言するか」を考えさせ、グループで意見交換させる。 ▲可哀想だから買って彼らの生活の役に立ちたい。 ▲買っていいのかわからない。 ○「なぜこのような状況になるのか？」 内容要約…コミュニケーション英語Ⅲの授業で学習した内容をコンセプトマップを見せながら内容を要約する。(1分) Q2 「サイズの調整できる靴をもらって、子どもたちはどう変わったのだろうか。」(2分) ▲学校に行けるようになった。 ▲友達ができた。 Q3 「もし自分が物を無料で、定期的にもらったらどう感じるか。」 ▲最初は嬉しいが、もらえるのが当たり前で、他のものも欲しいと思ってしまう。 ▲働かなくていいと思ってしまう。 (5分) ○「貧困＝スラム街＝不幸」なのか？ モザンビーク、マプト市 Mafalala 地区スラム街の写真・動画を視聴させる。(4分)	英語の授業で視聴した公立学校での机の不足や3部制の授業について想起させ、教育が十分に行き届いていないことを実感させる。 生徒とインタラクションをとりながら内容を想起させる。 資金協力によって改善された途上国の人々の生活に注目する。 (グループ内共有) 国際協力の難しさについて思考を深める。(グループごと発表) ・経済的には貧困でインフラ整備がなされていないが精神的	資料① 資料② 資料③ 資料④⑤

	Q4 気づいたことをメモし、グループで気づいたことを共有し、代表者が発表する。 (8分)	に自由で平和な生活を送る人々の存在に気づく。 ・間違いということはないので極力たくさん出るようヒントを与えて支援する。気づいたことを記入させ、グループでまとめる。	
まとめ (15分)	T2 ウェビングマップを作成する。 グループで中央に「豊かさ」とキーワードを置き、グループ内で考えて話し合う。 ○世界の人々にとっての豊かさとは何か。 日本に住む自分にとって、アフリカの人々にとって、豊かに生きるために何が必要かを考える。 教師が、完成したグループごとの写真を撮り代表者がグループの考えを発表する。(13分) ○次時の予告(1分) モザンビークの大学生と専門学校の先生が考えた、ダイヤモンドランキングによる国にとっての優先事項の動画を視聴する。	「日本に住む自分たちにとっての豊かさとは何か」で考えたものと比較する。 各自が自分の役割を見つけ、他者の意見に耳を傾け、自分の意見を表現できるようにする。 モザンビーク人で、自分たちのような環境下にある学生であり、国の将来について前向きに考えている姿を見ることで、自分の将来のみならず自国や世界の将来について視点を移すことができるようにする。	資料⑥ 資料⑦
7. 本時の振り返り ○アンケート入力により振り返りを行う。(1分)			

8. 学習方法及び外部との連携 5月22日、北海道教育大学教育学部函館校 国際地域学科地域教育専攻准教授 石森 広美先生（本研修事前研修講師）をお招きし、全校生徒対象に国際理解講座を実施した。「世界はつながっている」というテーマでお話を頂いた。生徒と先生、生徒同士がインタラクションをとりながら、SDGsの達成に向け、生徒が地球市民として世界規模の問題を考え、学ぶことの大切さを実感することで学習意欲を喚起すると共に、キャリア形成への意欲を高めることができた。この連携により、日本と世界とのつながりの意識が高まり、学習効果が高まったと言える。
9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 7月 ・宮城県高等学校国際教育研究会主催の国際理解生徒研修会への参加募集を宮城県内の高校生に対して図り、73名が参加し、そのうち勤務校からは5名が参加した。JICA 海外協力隊 OG の豊川 絢子氏による講演「ルワンダの暮らしから考える～持続可能な開発とは？～」、公益財団法人宮城県国際化協会（MIA）による外国人講師との10名との交流などを実施した。 9月 ・宮城県高等学校国際教育研究会主催の「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」宮城県予選への参加募集を宮城県内の高校生に対して行った。勤務校から1名が参加し、本研修で得た経験を生かし指導した。 12月 ・宮城県高等学校国際教育研究会主催の教員研修会で、JICA 二本松訓練所にて施設見学、事例報告等の研修を企画した。 ・NPO 法人ルワンダの教育を考える会主催の「Thierry Uwayo ルワンダ人画家絵画展」における永遠瑠マリルイズ氏講演会に本校校長と共に出席した。同氏には昨年度全校生徒対象に講演を行って頂いている。得た知識を生かし、授業でルワンダの人々の暮らしや思いについて伝え、生徒の国際理解への学びを深めた。

【自己評価】

10. 成果	13.にあるように、事後アンケートの結果から、生徒の国際理解はもちろん、学習意欲の高まりも見られ、進路意識の高まりなど、幅広く教育効果があることが検証された。この結果を校内職員にも周知し、国際理解教育の意義について、教員に伝えることができた。初任者研修の教員（3名）への講話として、ロングホームルームの時間を国際理解へ活用するよう話をした。
11. 課題	今後は学校全体として、ロングホームルームの時間を活用し、多くの教員が「国際理解」の授業を実践できるようにするために、誰にでも実践してみようと思えるような教材開発をしたい。 不登校傾向の生徒が増加する中、国際理解の授業で主体的・対話的な深い学びを通じて不登校を未然に防ぎ、教室を心の居場所として、相談し合える集団、SOSを発信できる環境づくりをしていきたい。
12. 改善点	発問の数が多くなり、生徒が思考を深める時間を十分にとることができず、生徒を焦らせるような形になってしまった。ロングホームルームの年間計画で時数を4時間とれば、余裕をもって進めることができる。

13. 学びの軌跡
(児童生徒の反応・変化、感想文、作文、ノートなど)

発問：「魚市場で物乞いの子どもからナッツを買うか？」
生徒の回答：少しでも役に立てると思うから買う/その後どうなるかわからなくて怖いから買わない/

発問：「ケニアの子どもが調整できる靴を買ってどのような変化があったか？」
生徒の回答：学校に行ける/けがが減る/早く歩ける/感染症にかかる確率が下がる/家事をする時間が減る/

発問：「物を無料でずっともらい続けたらどう思うか？」
生徒の回答：申し訳ないけどもらう/ありがたいけど申し訳ない/
/ずっともらっていると焦る/怖い/

発問：「スラム街の子どもを見てどう思うか？」
生徒の回答：楽しそうで見えてうれしかった/貧しさを感じさせないくらい元気いっぱいだった/子どもたちがすごく笑顔で日本にはない良い部分をもっていると思った/

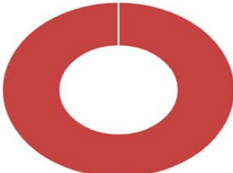
発問：「魚市場でナッツ売りをしていた子どもとスラム街の子どもを比べてどう思ったか？」
生徒の反応：貧富の差が激しい/思った以上に発展していた/スラム街の子どもの方が幸せそう/スラムで意外とちゃんとした服を着ている/イメージより汚くなかった/スラム街の子どもの方が裕福に見える/スラム街の方が発展している

・ 本時の授業後のアンケート結果

11月10日（金）国際理解 授業アンケート

設問 1 世界で起きている問題について、理解が深まりましたか？

☐ 未回答を含め



選択肢 1	18人(100%)	はい
選択肢 2	0人(0%)	いいえ

設問 2 世界で起きている問題を身近に感じることができましたか？

☐ 未回答を含める



選択肢 1 18人(100%) できた
選択肢 2 0人(0%) できなかった

設問 3 自分の考えを他の人に表現することができましたか？

☐ 未回答を含める



選択肢 1 18人(100%) できた
選択肢 2 0人(0%) できなかった

設問 4 授業を受ける前と後で、「スラム街（貧困層が密集して居住する地域）」についてのイメージが変わりましたか？

☐ 未回答を含める



選択肢 1 18人(100%) 変わった
選択肢 2 0人(0%) 変わらなかった

設問 5 アフリカや、発展途上国を含む他の外国のことについてもっと知りたいという意欲が高まりましたか？

☐ 未回答を含める



選択肢 1 17人(94.44%) 高まった
選択肢 2 1人(5.56%) 高まらなかった

生徒アンケートの自由記述（抜粋）

- ・先入観をもつのは良くない。
- ・貧しい国が豊かに生きるために自分に何ができるのか考えていきたいと思った。
- ・いつもの生活が当たり前ではないことに気づき、自分が恵まれた生活をして、勉強できる環境に感謝してもっと勉強を頑張ろうと思った。
- ・大人なしで子どもだけで商売をしている姿など日本と違うことばかりで驚いた。募金を積極的にしていきたい。
- ・テレビで見るような上辺だけでなくよく理解できた。海外に行ってもっと知りたい。 等

	教員のアンケート結果 約 13 名の教員・管理職、JICA 職員のお二人に授業参観を頂いた。 「今後国際理解の授業をロングホームルームでやってみたいと思いますか」→ 「はい」(2名) 「いいえ」の理由としては、「知識や経験がないので難しい、準備に時間がかかる」という回答があった。
14. 授業者による自由記述	国際協力の現場を目の当たりにし、途上国に対する経済的・人的国際協力の必要性を実感した。教育者として、本研修で得た経験や知識を活かし、グローバルな視点で物事を捉え、地球市民として行動できる生徒を育成したい。その際に注意が必要なのは見聞したことの生徒への伝え方である。偏見を助長するようであってはならず、個人的な偏った見方・切り取られた一部の写真が生徒に与える影響は多大である。事実をありのままに伝え、今後、先進国に生きる日本人が他の国々に与える影響を鑑み、どのように行動していくのかを思考させたい。また、生徒の変容を伝えることで、少しでも多くの教員に国際理解教育の重要性を訴えていきたい。

資料①



資料②



資料③



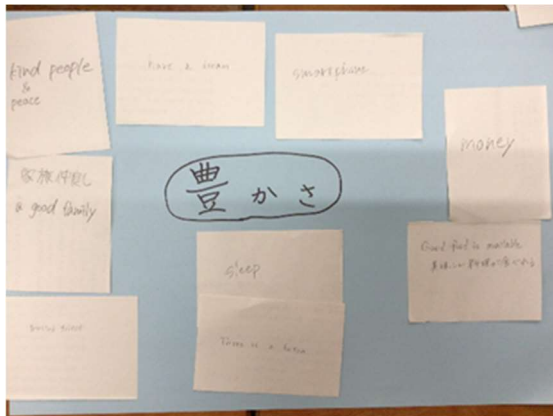
資料④



資料⑤



資料⑥



Have a dream / A good family / Kind people / Peace / Trusted friends などの記述

資料⑦



参考資料：

- 「『生きる力』を育む グローバル教育の実践」明石書店 石森広美 著(2013)
- 「空を見上げて-ルワンダの内戦 そして希望-」永遠瑠マリルイズ 著(2015)
- 「グローバル教育の授業設計とアセスメント」学事出版 石森広美 著(2019)
- 「2019年度 教師海外研修報告書」独立行政法人 国際協力機構 東北センター(2020)
- 「国際理解教育を問い直す—現代的課題への15のアプローチ」日本国際理解教育学会 (2021)
- 「AfriMag 2023 vol.2」AFAM(African Association of Miyagi)
- 「豊かさと開発」：「何のための開発？」ダイヤモンドランキング 開発教育協会(2016)